



よりよい学校（園）生活を求めて

言葉や聞こえなどに悩みをもつ子どもへの支援

発音の誤りがある子どもへは…

- 正しく発音できない語や音については、指摘したり注意したりしないようにします。
- 言い直しをさせたりするのではなく、周りの人が正しい発音で返してあげるかかわり方が大切です。
例：子「しゃかなだ」親「うん。さかなだね」
- 発音に注目するのではなく内容面に注目し、楽しくおしゃべりできるように、よく話を聞きます。



吃音のある子どもへは…

- 「ゆっくり」「落ち着いて」などの話し方への指示や注意はしないようにします。
- 周りの大人がゆったりとした口調で話し掛けます。
- どのような話し方をしているても、内容面に注目して、最後まで話を聞きます。
- 同時に声を合わせると、楽に話せることがあります。

難聴の子どもへは…

- 子どもの顔を見て、はっきりした口形で、ややゆっくりと話します。
- 聞き取れなかったときは、子どもの様子に応じて、ほかの言葉に言い換えたり、字や絵にかいて伝えたりします。
- 座席は前から2、3列目にして、聞こえのよい耳から教師の声が聞けるような配置にするとよいです。
- 全体の前で話すときは、子どもに自分の顔を見せ、子どもの視線を確かめながら話します。大切な指示は、板書などの視覚的な手掛かりを活用します。

- 補聴器は、周りの音を聞こえやすくしてくれますが、雑音も大きくなります。精密機械で壊れやすく、大変高価なものです。むやみに触ったりすることがないような配慮が必要です。



かん黙の子どもへは…

- 話すことにとらわれず、絵画や作文など、話す以外の表現方法が豊かになるかかわり方を工夫します。
- 子どもが感じている対象（人や場所、活動など）へのストレスの程度を見取りましょう。そして、ストレスの解消を目指し、焦らずじっくりとかかわります。

佐渡市立金井小学校 佐渡ことば・こころの教室
TEL : 63-4156 (直通) 63-4115 (代表)



ご相談は、
お気軽にこちら
まで



学習面や行動面，対人関係に悩みをもつ子どもへの支援



子どもの自己肯定感を高めるかかわりをベースに，全体への対応と個別への対応を組み合わせます。

学習面に悩み

指示が通らない

座席を配慮したり，モデルとなる子どもを近くの席にしたりします。全体に伝えた後に個別に伝えます。

苦手な学習がある

本人が取り組みやすい教材（内容や量に配慮したプリントなど）を用意します。

家庭学習をしない

保護者も交えて話し合い，取り組む量を調節します。

行動面に悩み

急な変更に対応できない，勝ちにこだわる
変更があることや思い通りにならないことがあることを事前に伝えます。少しでも対応できたら称賛します。

興奮してしまう

安全で静かなスペースを作り，落ち着くまでそこで過ごします。望ましい行動を称賛し，強化します。

多動である

荷物運びなど，教師の補助役にし，動く機会を作ります。

対人関係に悩み

大声を出す，嫌がることを平気で言う
いけない理由をきちんと説明し，とるべき行動を教えます。絵や写真などを用いて振り返りをします。望ましい行動を称賛します。

友達とのトラブルをおこしやすい

集団行動に参加しない

ソーシャルスキルトレーニングで相手の思いや状況の理解を促します。様子を見て集団に誘います。部分的な参加を認めます。

個別への対応

全体への対応

自己肯定感

+

+

+

授業構成の工夫 例

- ・授業の流れを始めに提示
- ・短時間の活動を組み合わせた学習内容
- ・導入での活動の工夫（クイズ形式の復習，フラッシュカードの活用）

板書と机間指導の工夫 例

- ・すっきりした黒板周りの環境
- ・板書の構造化
- ・机間指導の目的の明確化
- ・机間指導での個別の声掛け

指示・説明・発問の工夫 例

- ・簡素化（一文一動詞での言葉掛け）
- ・具体的で肯定的な表現
- ・活動がイメージしやすい表現（静かに歩く⇒「忍者歩きで移動」）

視覚情報や活動の工夫 例

- ・視覚化したカードでの指示
- ・刺激の少ない教室環境
- ・読む，書く，相談するなど活動を組み合わせる（飽きさせない）。

子どもの自己肯定感を高める教師のかかわり

- やる気を高めるかかわり…親しく声を掛ける，子どもの話に関心をもつ
- できたという成功体験…できることから始める，無理のない目標設定
- 自分ではできるという自信…当たり前のことのできたら褒める，認める
- 自分でも役に立つという体験…子どもに仕事を与え，感謝する